

取組 [1] ダイバーシティ研究環境整備強化

1 研究支援員の配置

広島大学に所属する研究者が、妊娠・育児・介護により研究時間の確保が困難になった際に、研究者の指示の下に研究補助業務に従事する研究支援員を配置することで、研究とライフイベントの両立を推進することを目的として2017（平成29）年度から支援を行っている。この制度は同時に、研究支援員にとっても将来についての様々な学びや自身の研究に関わる貴重な経験を得ることができる機会となっている。

対象者

本学と雇用契約を結び、本学を主たる研究の場としている大学教員（教授、准教授、講師、助教、助手）及びフルタイム勤務の教育研究系契約職員（特任教員、寄附講座等教員、病院助教、研究員、特別研究員、病院診療医及び共同研究講座等教員に限る。）のうち、次の①～④の申請要件をすべて満たす者

申請要件

- ① 妊娠中の者、12歳に達する日以後最初の3月31日までの同居の子を養育している者又は介護認定（要支援認定を含む。）を受けている一親等以内の同居の親族を介護している者
- ② 配偶者がフルタイムで勤務している者、単身者、又は配偶者のいない者
*申請者が男性の場合は、配偶者が、大学、大学共同利用機関又は独立行政法人等で研究者としてフルタイムで勤務している者
- ③ 産前産後休暇、育児休業、介護休業、その他休業・休職中でない者（ただし、配偶者のいる者にあつては、配偶者も同様とする。）
- ④ 年間500万円以上の外部資金の採択を受けていない者

支援実績

2021（令和3）年6月～11月の実績

■利用者性別・役職

	計	教授	准教授	助教・特任助教	その他（研究員等）
男性	1	0	0	1	0
女性	12	0	8	2	2

■申請理由

	妊娠	育児	介護
男性	—	1	0
女性	0	12	0

支援内容

文献収集、文献調査補助、オンライン調査補助、インタビューのテープ起こし、資料整理、実験補助（サンプル作成、材料分析、測定、Real time PCR、等）、実験使用器具の洗浄、データ入力、データ分析、解析、資料作成、研究成果の整理、等

利用者の声／研究推進における効果（抜粋）

- 子供の育児を行いながら研究を進めていくことが困難な状況で、本研究支援制度を活用させていただき、研究推進に役立つ非常に有難い制度であると実感した。（医系教員）
- 支援が1つの駆動力となって、優れた成果を出すことができた。無事、ステージゲートの評価はクリアし、来年度も引き続き事業が継続されることになった。（理系教員）
- 研究支援員の利用によって、外部資金獲得に向けた計画書作成・申請ならびに、研究成果公表のための分析をすすめることができた。（医系教員）
- データ入力や整理は研究において重要であるが、予想以上に時間と手間がかかるため、それらの作業を支援員に行ってもらうことで、研究の分析や論文執筆に時間を充てることができた。また、研究支援員にとっても、新しい知識の習得と良い経験になっている。（文系教員）
- 文献資料の収集・印刷や、データの収集・分析・図表の作成の補助を得たことにより、多くの時間を論文執筆にあてて集中して取り組むことができた。（文系教員）

研究支援員の声／従事した感想(抜粋)

- 普段の学生実験なら使うことのできない機械や器具を使ったり、授業で扱っている内容などの実験を行い、とても興味が深まった。研究室のイメージが今までは、同じ作業の繰り返しだと思っていたが、実際は結果から自分で考察して次にどのようにつなげるかが重要ということを実感した。(理系学生(3年生))
- 研究支援員という形で関わることができたことは、自分自身の研究を進める上でも参考になることが多く、多くを学ぶことができた。学生として研究従事することとは異なり、研究へ取り組む意識も変化したように感じる。(文系学生(3年生))
- 自分がどのように立ち回ったらいいのか、事前に計画を立てて進める事の大変さを感じた一方で、やりがいも大きかった。同じ専門家である先生方といかに協同していくのかを考えるよい機会であった。(文系学生(D2生))
- 身近で研究の様子を見せていただき、授業や学生実験では学べなかったことを多く学べた。(理系学生(3年生))
- 研究者の仕事に周辺的に参加しながら、研究に対する考え方などを意識する機会となった。(文系学生(1年生))

2 小学校休業期間中の学童保育

広島大学の構成員の就業と家庭生活の両立支援を目的として、小学校の長期休業中(春季・夏季・冬季)に、東広島地区(東広島キャンパス)と広島地区(霞キャンパス)で学童保育(子どもクラブ)を開設している。業者委託により、指導員(委託業者)と学生サポーター(広島大学で教職課程を履修中の学生などを委託業者で雇用)による運営体制をとっている。学内施設等での体験学習(春はハイキング、夏是水辺の生き物の観察やガラスの模様付け体験、冬はしめ縄づくりや焼き芋づくりなど)や屋内・屋外運動支援などを行うことで、本学学生の実習の場にもなっている。

	東広島地区(東広島キャンパス)	広島地区(霞キャンパス)
春季 子ども クラブ	期 間／2021(令和3)年3月26日～4月7日(平日8:00～19:00)	期 間／2021(令和3)年3月26日～4月7日(平日8:00～19:00)
	保育実績／本学教職員の学童19名(新小学校1年生から6年生・卒業生も含む)	保育実績／本学教職員の学童34名(新小学校1年生から6年生・卒業生も含む)
夏季 子ども クラブ	期 間／2021(令和3)年7月21日～8月27日 (ただし、8月10日～8月13日を除く)(平日8:00～19:00)	期 間／2021(令和3)年7月21日～8月27日 (平日8:00～19:00)
	保育実績／本学教職員の学童19名(小学校1年生から6年生)	保育実績／本学教職員の学童33名(小学校1年生から6年生)
冬季 子ども クラブ	期 間／2021(令和3)年12月24日～2022(令和4)年1月6日 (ただし、12月29日～1月3日は除く)(8:00～19:00)	期 間／2021(令和3)年12月24日～2022(令和4)年1月6日 (ただし、12月29日～1月3日は除く)(8:00～19:00)
	保育実績／本学教職員の学童17名(小学校1年生から6年生)	保育実績／本学教職員の学童25名(小学校1年生から6年生)

参加者の声(抜粋)

- 朝、仕事の関係で7時30分過ぎに預ける必要があるが、いつも調整していただき感謝している。子どもクラブは働くものにとって、とても重要である。(保護者)
- いつも利用させていただいているが、子供が楽しそうなので私も安心して任せている。小学校の学童より自由度が高い点や少人数な点も嬉しい。(保護者)
- 引き続き開設をお願いしたい。(保護者)
- お弁当が注文できるので、助かっている。(保護者)
- 今回も楽しかった。特にハイキングが楽しかった。(学童)
- 保育園の時のお友達とも一緒に遊べてとても楽しかった。(学童)
- とても楽しかった。また行きたい。(学童)



(ががら山でハイキング)



(焼き芋づくり)



(学内のビオトープで水生生物の捕獲と観察)

3 病後児保育利用料補助事業

広島大学の教職員の子(6歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある子。)が病気や怪我の回復期にあるため集団保育が困難な期間について、病後児保育施設を利用した際に支払った利用料の3分の2を超えない額(10円未満切り捨て)と1,000円のいずれか低い額を、利用料補助として、1人につき、年間16回まで支援している。



4 キャリア継続支援

博士課程後期合格者の入学料不徴収

研究活動を中断中の修士の学位を有する女性で、本学の博士課程後期を受験して合格した者の入学料を不徴収とする経済的支援の募集を行った。(ダイバーシティ事業Webサイトに掲載, ダイバーシティ推進協議会にて周知, メンバー機関や各研究科へメールで周知した。(各研究科の入試情報Webサイトに掲載))

キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(広島大学)の採用及び公募

キャリアを中断している博士号を有する女性のキャリア再開支援, 及び広島大学に在籍する研究者の配偶者の研究継続・再開・同居をサポートする「キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(CAP研究員)制度」により、フルタイム1名、パートタイム2名を採用した。また、令和4年度採用のCAP研究員の公募を実施した。

	名称	CAP研究員(フルタイム)	CAP研究員(パートタイム)
公 募	対 象 者	キャリア中断中の博士号を有する女性	本学に在籍する研究者の配偶者(性別不問)
	目 的	研究継続を断念した女性研究者の研究活動の再開とキャリア形成を促進すること。(キャリア形成促進型)	配偶者の就職により自身のキャリアを断念した研究者のキャリア継続・再開を促進すること。(両立支援型)
	経 費	学長裁量経費	学長裁量経費
	雇 用 期 間	2022(令和4)年4月から1年間(更新なし)	2022(令和4)年4月から1年間(更新なし)※週10時間以内
採 用	採 用 部 局	大学院人間社会科学研究科(1名)	大学院統合生命科学研究所(1名) 大学院人間社会科学研究科(1名) ※内1名は10月からは森戸国際高等教育学院の准教授へ採用。
	雇 用 期 間	2021(令和3)年4月から1年間(更新なし)	2021(令和3)年4月から1年間(更新なし)

5 男女共同参画セミナー

- 日 時 / 2021(令和3)年8月3日(火) 16:00~17:00
2021(令和3)年9月14日(火) 15:00~16:00
- 場 所 / 法人本部棟5F1会議室
- 講 師 / DVDの視聴(60分)
- 参 加 者 / 26名(広島大学 役員懇談会出席者)
- 内 容 / 無意識のバイアスへの理解を深めることを目的に、生物学者、地質学者といった女性科学者の経験を中心とした女性科学者への差別やさまざまな経験が描かれた映画『Picture a Scientist』について、役員懇談会出席者を対象に視聴するセミナーを開催した。出席者は、8月3日又は9月14日のいずれか都合の良い日を選択し、法人本部棟5F1会議室でDVDを視聴した。また、いずれの日時も都合が合わない者には後日DVDの貸し出しを行った。

参加者の声(抜粋)

- 自らの行動を振り返る機会になり、無意識のバイアスに今まで以上に努力しようと思った。
- これまでも無意識のバイアスには気を遣ってきたが、改めて、意識するきっかけとなった。
- 構成員対象に、短時間の啓発セミナーなどを時々(年に1回程度)実施してはどうだろう。

ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovations)

～一人ひとりが主役の研究開発が新しい未来を拓く～

- 日 時／2021(令和3)年8月18日(水) 13:30～17:45
- 場 所／オンライン
- 参 加 者／446名(講演者等:16名, その他の参加者:430名)
- 基 調 講 演／「自然科学・工学におけるジェンダード・イノベーション」(同時通訳)
Londa Schiebinger (スタンフォード大学ジョン・L・ハイツ科学史 教授)
- 講 演／「データから見える日本の姿とその未来」
相田 美砂子(広島大学 特任教授・学長特命補佐(研究人材育成担当))
- 「ジェンダーバイアスを生む心のしくみ」
森永 康子(広島大学大学院人間社会科学研究所 教授)
- 「ICTが紡ぎ出すダイバーシティ推進の未来像」
平川 正人(鳥根大学大学院自然科学研究科 教授)
- 「薬物有害事象の発現リスクにおける性差分析」
石澤 有紀(徳島大学大学院医歯薬学研究部 准教授)
- 「性差医療の現状と今後の展望」
片岡 仁美(岡山大学病院ダイバーシティ推進センター 教授)
- 「『自然体』- 人間中心を追求したMX-30開発」
竹内 都美子(マツダ株式会社人事本部 本部長)



- 内 容／ジェンダード・イノベーション(科学や技術, 政策に性差分析を取り込むことにより, 新たな視点や方向性を見だし, 真のイノベーションを創出する)の重要性が, 今, 認識されるようになってきている。このシンポジウムを通じて, 研究開発や社会活動のあらゆる場面において, さまざまな視点と角度から検討し取り組むことの重要性を, 社会のあらゆる立場の方々(とくに, 次代を担う若い世代の方々)と一緒に考える。

パネルディスカッション:「～『他人事』ではなく『自分事』に～」

- モデレータ／堀 利栄(日本学術会議第三部会員, 愛媛大学大学院理工学研究科教授, 副学長(ダイバーシティ担当))
- パネリスト／渡辺 美代子, 相田 美砂子, 森永 康子, 平川 正人, 石澤 有紀, 片岡 仁美, 竹内 都美子
白川 俊之(広島大学大学院人間社会科学研究所准教授)
今村 維克(岡山大学大学院自然科学研究科教授)
高山 弘太郎(日本学術会議第二部会員, 豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授, 愛媛大学大学院農学研究科教授)

参加者の声(抜粋)

- 趣旨説明がわかりやすい導入であり, これを受けて基調講演で, 本分野を先導された Schiebinger 先生のお話がよりわかりやすく頭に入ってきた。
- ジェンダード・イノベーションについて, 自分の身の回りでは浸透している気が全くしないが, 浸透させる必要のある課題であると強く感じた。
- ITや機械系メーカーで「リケジョ」採用が広がった際, 女性活躍推進の文脈で女性比率を上げたいためだと感じていたが, イノベーションを起こすために, むしろ必要な動きだと理解でき, 納得した。
- ジェンダード・イノベーションについてほとんど知識がなかったので, どのセッションも大変, 勉強になった。ジェンダーはサイエンスの課題でもあり, サイエンスを推進する側(社会を含む)の課題でもある, という両面があると理解した。
- ご登壇の先生方のご専門が多岐に渡っており, それこそダイバーシティの意義・価値を強く感じる事ができた。
- 同一テーマを多角的に見られるプレゼンテーションだった。特にパネルディスカッションでの意見交換が有意義だった。

